

2025
チェリー通信
8月号

イベント情報

2日（土）、3日（日）年長野外活動

5日（火）サッカー教室（オリオン、ペガサス、オレンジ5歳）

6日（水）夏祭り（0, 1歳児クラス）

7日（木）夏祭り（2, 3歳児クラス）

8日（金）夏祭り（4, 5歳児クラス）

9日（土）土曜保育お休み

22日（金）避難訓練

26日（火）体育教室（アンドロメダ、ホワイト5歳）

今月のきらびと

今月は延長保育を担当している大原慎先生
をご紹介します。

慎先生は保育者として就職後も大学院など
で学びを深め、特に心理の分野や今回資料を
まとめてくれた”アタッチメント”の分野の研
究も独自にされています。

今回は学びの一端を保育関係者でなくても
わかるように資料をまとめてくれました！



子どもは 学びの師匠

子どもたちはそれぞれの速度で日々成長発達しています。私は子どもたちの瞬間瞬間の言動などから常に学ばせていただいております、まさに“学びの師匠”に、日々鍛えてもらっております。



大原 慎

脳が健全な発達を遂げるためには、
適正な経験が、適正な時期に、適正な量だけ
与えられなければならない。

私たち保育者には「子どもの最善の利益」になるような、安全（危険がない状況）・安心（恐れを感じない状態）で、発達が促されるような日常を提供する責務があります。

一方、集団で過ごしている中で、一人ひとりの子どもの人権を尊重し、適切な「最善の利益」を提供するためには、保育学だけでは不十分であり、周辺領域を含めた、広く深い学びが保育者には大切であると個人的に考えています。

今回は私が専門（研究）にしている**アタッチメント**を基に、乳幼児期の子どもたちの発達の一部について、皆さんと共有させていただきたいと思います。

（詳しく確認したい方は、いつでもお声がけ下さいね）

1) Bruce D. Perry and Maia Szalavitz, (2006), THE BOY WHO WAS RAISED AS A DOG, And Other Stories from a Child Psychologist's Notebook. (犬のくみ (英)), 創元社出版 (解説), 犬として育てられた少年-子どもの脳とトラウマ-, 加藤陽子訳。

アタッチメント

「ゆりかごから墓場まで」

これは英国のジョン・ボウルビイ
(1907~1990/児童精神科医・精神分析家)
の言葉です。

この言葉は、生涯発達するヒトの健やかな育ちを支える上で“アタッチメント”の大切さを表現しています。

※アタッチメントは“愛着”という言葉で表現されることも多いのですが、日本語における“愛着”本来の意味と区別する為、原義に基づきここでは“アタッチメント”と表現します。

アタッチメント＝情緒的な絆

ヒトは、特定の人との心のつながりが形成されることにより、自分は恐怖を感じた時や困った時等に助けてもらえる存在であると感じられること、また、その安心感から様々なことに挑戦できるようになります。

保護者以外も対象になる

過去には3歳までは母親がお世話をするのが大切という意味の『**3歳児神話**』という言葉がありましたが、現在は否定されています。

アタッチメントの対象になるのは、保護者だけではなく、祖父母や私たち保育教諭等も含まれます。そのため、保護者の皆さんだけで抱え込まず、引き続き、**ご家庭と園の両方で協力**して子ども達の育ちを支えさせていただけますと大変ありがたいです。

ちなみにアタッチメントの対象者は、年齢によってパートナー等にも変化していきます。一方、その**関係の土台は乳幼児期に形成される**といわれています。

発達の土台

ヒトは生涯発達しますが、発達の土台として、**安定的なアタッチメント形成は大切な土台のひとつ**です。

※最近よく耳にする非認知的能力（社会情動的能力/OECD）を育むための土台としてもアタッチメントは重要になります。余談ですが、非認知的能力を育むためには特別なプログラムや練習が必要なのではなく、主に以下のことが大切になります。

★一人ひとりの発達状況に応じた環境

★日々の様々な経験

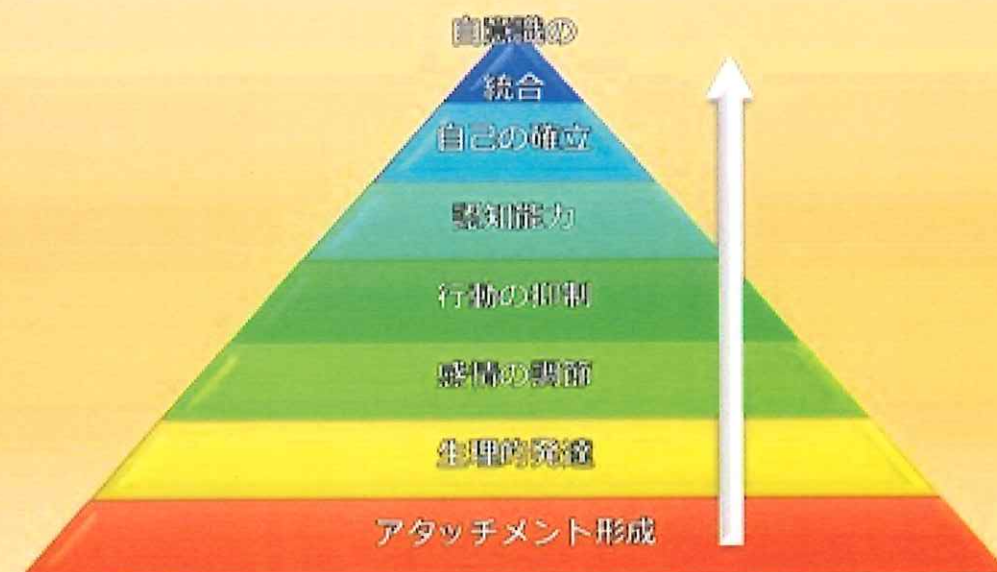
★乳幼児が感情を表出した時に、側にいる大人がどのような関わりや対応をしてくれたか

※こども園や保育園等の施設を利用している乳幼児が、集団生活の中で非認知的能力を育むためには、保育者から上記3点を含めた専門性に裏付けされた質の高い関わりや環境構成、保育教育活動等を提供されることが大切とされています

土台の安定が成長発達の鍵

多くのヒトにおいて発達には順番があります。例えば歩き始めたばかりの子が急に高くジャンプできるようにはなりません。

成長発達するためには**“私は、守られ、愛される価値がある存在なんだ”・“生きていて、大きくなっていいんだ”・“他者を信じていいんだ”**と**感じられるアタッチメントという土台が大切**になります。この土台が安定しているからこそ、健全に次に必要な発達の段階へと順番に進むことができます。



アタッチメントの 対象を決めるのは 子ども

子どもにとって必要な時に、必要なケアをしてくれる存在がアタッチメント対象として選ばれます。対象者を選択する主体は子どもにあります。



語源は「くっつく」

「アタッチメント」の語源は「くっつく」という意味です。一方、これは“依存”や“スキンシップ”とは全く違います。くっつき、安心する経験を重ねることで、特定の対象者を心の拠り所にできます。危険がせまったら守ってもらえる、と思えるからこそ、特定の対象者から離れて遊べるようになります。子どもの独立性や自律性、自己効力感、他者への信頼感等は、特定の対象者との信頼に満ちた関係を通して育まれます。

アタッチメント対象者の主な機能

- ◆**安心の基地**：安心感が得られる活動の拠点。安心の基地が確立されていることで、安心して周辺環境へと探索（遊び）することができます。このことは子どもの自律を促し、一人でいることができる力をもたらすことにもつながります。
- ◆**安全な避難所**：必ず守ってもらえるとの期待をもって、くっつく（近接）拠点。守られた経験を重ねることで、やがて実際に目の前に対象者がいなくても、心の拠り所として機能するようになります。

安定的な アタッチメントが 結ばれるには 1

- ① 子どもの心が動いた時に、一貫した関わりを得られること（子どもにとって情緒的に利用可能なヒトであること）
- ② 子どもが出すサインに“ほどよく”応答すること



過敏すぎる応答はNG

過去には、乳幼児が表現する欲求（特に“泣く”行為）に、保護者が敏感に応答することが大切…と強調されていたこともありましたが、勿論、応答すること自体は大切なのですが、左記の②にあるように、“ほどよく”応答できることが大切です。

仮に“ほどよい”を具体的な数字で示すとすれば、子どもが何らかのサイン（例えば泣く行為）を一日のうちに10回示した場合、3～4回敏感的に対応して（すぐに「どうしたの？」と声を掛けたり、側に寄ったり等）、その対応が子どもの思いと一致していれば、子どもはある程度安心できる、といわれています。一方でこのように子どもが安心できるには条件があり、“今・その瞬間”に対応できなかった6～7回について「さっきは～な気持ちだったんだよね」等、タイミングがずれたとしても、その時に子どもが感じたと考えられる感情に寄り添ったり、思いを寄せることが大切になります。

ちなみに、常に完璧に対応しようと過敏になりすぎることで、乳幼児の欲求の先読みになる場合があります。乳幼児は、自分が不快な状況にいる時に、他者から自分に必要な行為を引き出し、その状況から抜け出る経験を通して自己効力感を得ていきます。その為、欲求の先読みが繰り返されると、例えば、不快な状況を自分で何とかしたいという動機や、動機に基づく自発的な行動をする経験が少なくなってしまうのです。

安定的な アタッチメントが 結ばれるには 2

- ③ 不必要に子どもの世界に入らないこと
(必要以上の声掛けや関わりをしない)
- ④ 子どもにとって分かりやすい環境を用意すること



見守り、応援団としての立ち位置

子どもは安心・安全感があることで、アタッチメント対象者から離れて遊び、恐怖を感じたり不安が高まったりすると、再びアタッチメント対象者の下に戻り（くっつき）、再度遊びに出かけられるように、安心・安全感を補給します。アタッチメント対象者から離れて一人での時間は、子どもの自律する力等を育みます。一方でこの時、可愛さや心配する気持ちから、左記③にもありますが、アタッチメント対象者が子どもから離れずにずっと側にいたり、実況中継するように声を掛け続けたりすると、子どもは気になってしまい、遊び（乳幼児にとっては発達に必要な学習）に集中しにくくなることがあります。

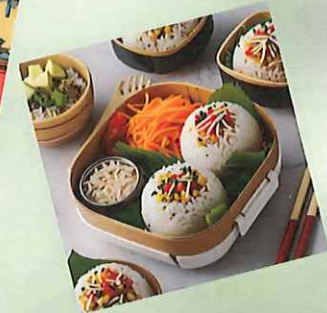
子どもの側にいたい気持ちをぐっと堪え、子どもから求められたときに対応することが、安定的なアタッチメントを育むためには大切になります。



今回はアタッチメントについて共有させていただきましたが、いかがでしたでしょうか。これからも、お子様の専門家である保護者の皆様に、種々ご指導いただきながら、お子様の健全な成長発達を一緒に支えさせていただけますと幸いです。また、今後機会があれば、東日本大震災及び能登半島地震に係る心のケアの活動や、プレイラビー等に関する事などもお伝えできればと思います。

今月の〇〇先生のおすすめ

今月は副主幹教諭の及川香織先生のおすすめを紹介します！



私のおすすめ「おにぎりず」

経緯・・・

小学校6年の息子が少年野球チームに所属しており、毎週土、日、祝日活動しています。練習や試合の度に捕食や昼食が必要であり、週末になると「何を持たせようかな～」と毎週のように考えている事に気が付きました・・・



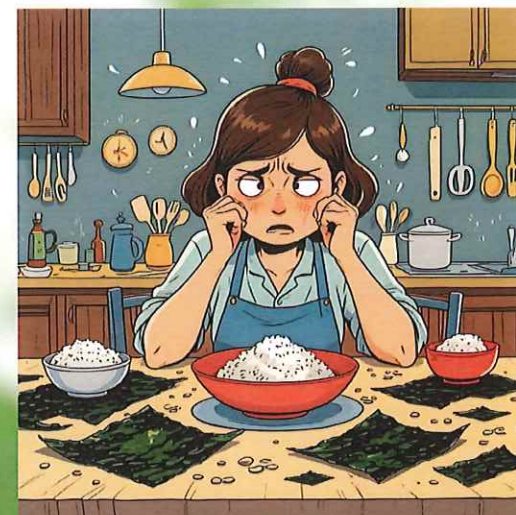
その中で、必ず持たせるのが
「おにぎり」です！





おにぎりは、身体が大きくなるための
栄養と練習や試合で消耗したエネルギー
を補うのにピッタリで、何より手軽に
食べる事ができ、作るのも簡単！

でも毎回にぎるのも大変・・・
色々具材を入れられてお手軽な方法は
無いものか・・・





ということで「おにぎらず」を紹介します。

「おにぎらず」とは・・・

名前の通り、おにぎりをにぎらずに作れます。ご飯と具材をのり挟んで作ります。

色々な包み方がありますが、我が家は半分の海苔でスタート。

こんな感じで、
ごはんと具材をのせます。





あとは半分に折りたたむだけ。

☆具材を入れるスペースが広いことから数種類の具材を組み合わせることができ、味わいのバリエーションも広がります。



おすすめ具材

- スパム＋厚焼き玉子＋ツナマヨまたはマヨネーズ
- 豚肉（焼肉味）＋レタス
- かにかま＋きゅうり＋薄焼き卵＋ツナマヨ





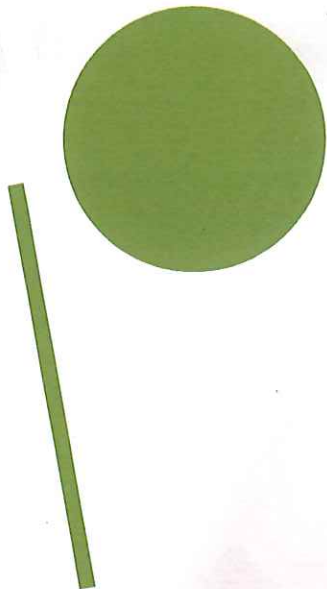
その他、おすすめ！

カルディの「チュモッパの素」もおすすめ！

韓国風のおにぎりで、ご飯に混ぜるだけで完成！

一口サイズに丸めてにぎると、食べやすいです。





クラス紹介

今月は4, 5歳混合の

”カシオペア座組ホワイト”

を紹介します。

○クラスで大切にしたいこと

自分のことは
自分でやる

思いやりを持って
人と関わる

クラスで行っている取り組み

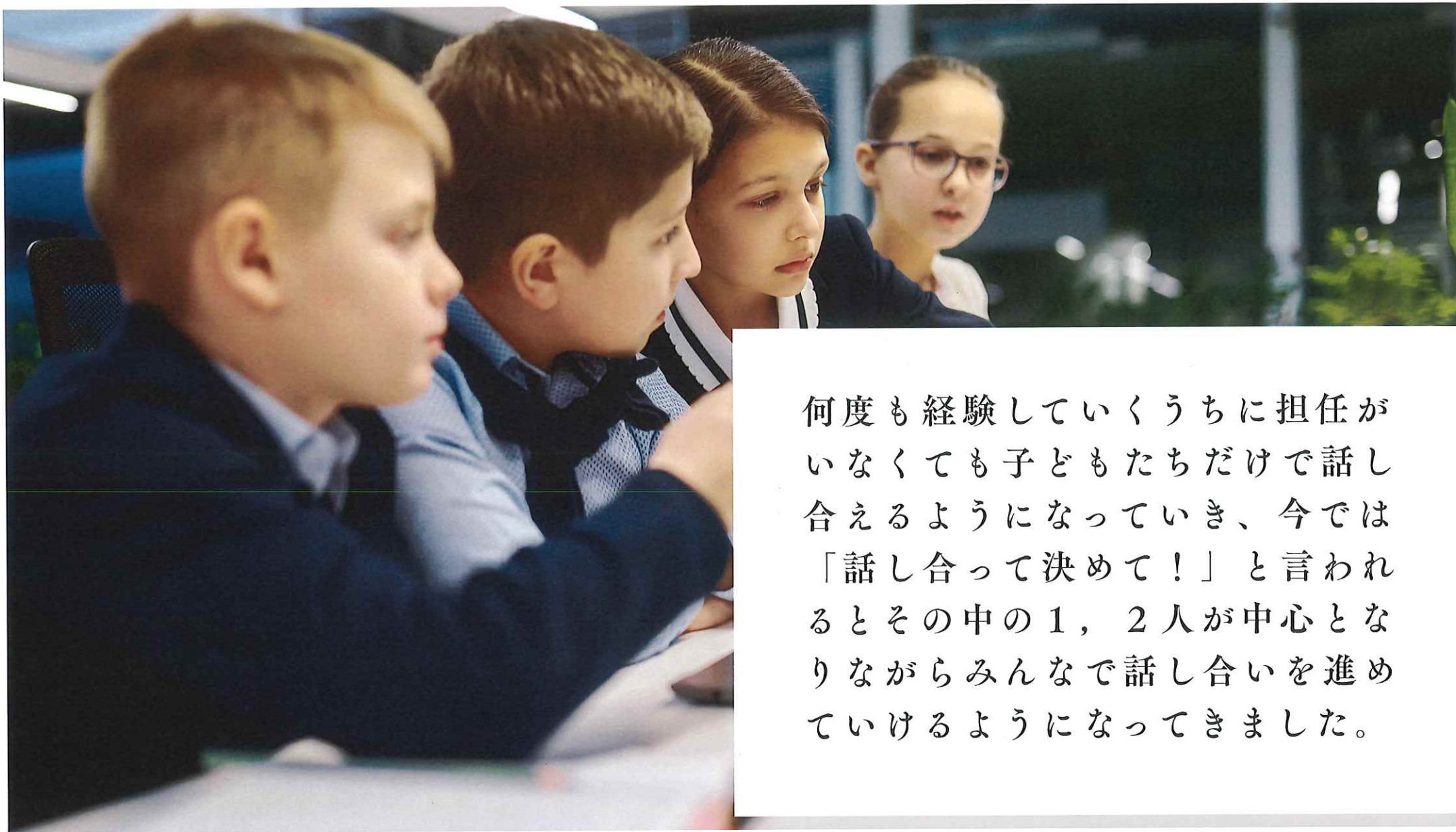
何か決めるとき、喧嘩したとき等に【話し合い】が出来るようにこれまで様々な場面で話し合う機会を経験してきました。

初めは話し合うとはいっても何をどうしたら良いか子どもたちも分からず、2，3人で「どうする？」と話し始め他の子は話に入らず何となくその場にいる状態に。



その度担任も一緒に入ってみんなの
考えを聞き出し、どんな意見が出た
か、意見をまとめる為にはどうした
らいいかな、と子どもたちに投げか
けてそこから会話が広がり話を進め
て行ったり、じゃんけんで決めたり
と話し合いの仕方や決める方法を知
っていきました。



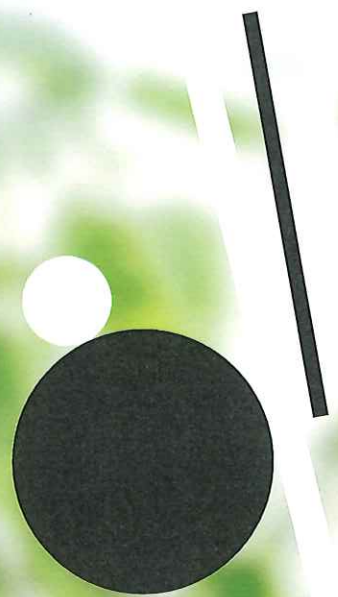


何度も経験していくうちに担任がいなくても子どもたちだけで話し合えるようになっていき、今では「話し合って決めて！」と言われるとその中の1, 2人が中心となりながらみんなで話し合いを進めていけるようになってきました。

A photograph showing a person's hands working on architectural models and blueprints. On the left, a person wearing a blue and white striped shirt is seated at a desk. Their hands are resting on a spiral-bound notebook and a calculator. In the center, there is a detailed architectural model of a multi-story building with a grid-like facade, made of white and grey materials. To the right, another person's hand is visible, holding a rolled-up white tube, possibly a blueprint or a piece of paper. The background shows a window with green foliage outside. The overall scene is brightly lit, suggesting a sunny day.

製作活動や廃材遊び等で作ったもので表現することが大好きなホワイトさん。イメージした物を形に出来たときは大きな喜びを感じています。

そんな中、「本当は白色なのに
赤に塗って変なの！」や「へ
たくそだな！」と友だちの作
品を否定する姿がありまし
た。自分が良いと思って作っ
た物を否定されることはとっ
ても悲しいことです。





そういう時には「自分が同じ
ことを言われたらどんな気持ち
になるか考えてごらん。」と
子どもたちに伝えてきました。

改めて自分に置き換えて考えると悪気はなかった一言だったかもしれませんが、突発的に出た言葉の重みを子どもたちなりに受け止めて「嫌な気持ちになる」と素直に認めることができ、そこからホワイトの子どもたちは相手の良い所を褒められるようになってきています。

「ここすごくかわいいね」

「本当は白だけど青に塗ってもいいね」等と常識に囚われず自分がこうしたい！と思うことを自由に表現し、それを互いに認め合ってさらに表現することを楽しんでいるところですよ！



◎七夕◎ 七夕会に向けて様々 な取り組みに挑戦し ました！

☆多センサリーボトルを作りました！

色水の色、飾りが落ちるスピード・・・各グループでじゃんけんをして勝った人の意見を通すか、多数決にするか、はたまたみんなが納得するまで話し合うのか…それぞれのグループで"真剣な話し合い"が行われました



◎学研かがくタイム◎
学研さんから講師の
先生が来て「空気砲」
の実験をしました

